

株主優待のご案内



当社オリジナルアニメキャラクターQUO カード

3月末日現在の株主様(1,000株以上)

- 1,000株 以上保有の株主様 ▶ 1,000円分を進呈
- 5,000株 以上保有の株主様 ▶ 2,000円分を進呈
- 10,000株 以上保有の株主様 ▶ 3,000円分を進呈

9月末日現在の株主様(1,000株以上)

- 1,000株 以上保有の株主様 ▶ 500円分を進呈
- 5,000株 以上保有の株主様 ▶ 1,000円分を進呈
- 10,000株 以上保有の株主様 ▶ 1,500円分を進呈



ホームページアドレス: <http://www.tms-e.co.jp/>

〒160-0023 東京都新宿区西新宿三丁目2番4号
TEL:03-5325-9111(代表)

モバイル配信サービス



アニ読メ

新旧の名作アニメが携帯コミックで楽しめる!



東京ムービー

あの名場面を着信ムービーに! 他にもお楽しみコンテンツ盛り沢山!



原作:モンキー・パンチ©TMS

ルパン THE COMIC

アニメコミックと原作コミックがいつでも読める!



©モンキー・パンチ/TMS・NTV

ルパン三世公式携帯サイト

絵・声・音・映像! ルパンの魅力が携帯に集結!



ブロードバンド映像配信サービス



東京ムービーONLINE

スポ根、アクション、美少女、ギャグ...見たいアニメがすぐにパソコンで楽しめる! <http://www.tms-e.com/online/>



原作:モンキー・パンチ©TMS

ルパン三世THEATER

TVシリーズからスペシャルまで、ルパンワールドをたっぷり堪能!

<http://www.lupin-3rd.net/theater/>

※QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。



この報告書は、環境負荷低減のため「古紙100%再生紙」「100%植物油インキ」を使用しています。



ルパン三世©モンキー・パンチ/TMS・NTV

第61期 株主通信

平成18年4月1日～平成19年3月31日



トップメッセージ



さらなる成長に向けて 収益力向上に 取り組んでいきます。

ご挨拶

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より当社グループ事業へのご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

ここに当社グループの第61期(平成19年3月期)における事業のご報告をお届けするとともに、今後の成長に向けた事業戦略についてご説明させていただきます。ご高覧いただければ誠に幸いに存じます。

平成19年6月
代表取締役社長 **古賀 督徳**

Q1 現在の経営環境として、 アニメーション業界および アミューズメント業界の 状況はいかがでしょうか？

現在、アニメーション作品は、日本国内で週100本近い数がテレビ放映されています。放映本数としては頭打ちの状況で、限られた枠に対する競争は激化しています。作品においては、深夜帯を中心に放映するヤングアダルト向けが増加し、キッズ向けとの2極化が進んでいます。

また、国内のアニメーション市場規模(テレビ放映、劇場公開、ビデオソフト、ネットワーク配信)は、現在約2,400億円に過ぎず、各社ともさらなる収益拡大を求めて、海外への作品供給や商品化権事業の展開を積極化させています。

一方、アミューズメント業界における施設運営事業の市場規模は、現在約7,000億円に近いと言われています。

大手施設運営業者、ゲーム機メーカーを中心として業績拡大は続いています。ゲーム機メーカーを中心として業績拡大は続いています。ゲーム機メーカーを中心として業績拡大は続いています。

収益が低減し、既存店の状況が厳しくなっています。そうした中で、各社とも大型店化の傾向を強め、さらなる集客力とスケールメリットを追求しています。

Q2 そうした状況の中、 トムス・エンタテインメントが 事業展開していく上での 強みは何でしょうか？

当社グループ全体の強みとしては、アニメーション事業とアミューズメント事業という2つのビジネスモデルを基軸としていることで、安定的な経営基盤と成長の源泉を確保している点が挙げられると思います。

アニメーション事業における強みは、「それいけ! アンパンマン」「名探偵コナン」「ルパン三世」に代表される人気作品約7,700話を、商品化権事業等の二次利用におけるコンテンツ資産として有している点です。また、当社グループはストーリーアニメの制作に強く、常にクオリティを意識した作品制作を維持することで、放映枠を確保しつつ、さらなるコンテンツ資産の蓄積につなげています。

その一方、アミューズメント事業は、差別化が難しいビジネスですが、社員教育をはじめとする店舗運営への注力により、地域ユーザーの支持を築いていく努力を行っています。今年から新たな取り組みとして、ゲームセンターにボウリング、バッティング、ビリヤード、飲食コーナーなどを取り入れた「複合型アミューズメント施設」を展開し、独自色を発揮していく考えです。

Q3 当期(平成19年3月期)に おける各事業の取り組みとその 成果についてお聞かせください。

当期のアニメーション事業は、全般に順調に推移しました。劇場版シリーズ「名探偵コナン」および「それいけ! アンパンマン」が高い興行成績を収めた他、下半期からは新作3本のテレビ放映を開始しました。売上高比率としては、より利益率の高い販売収入が制作収入を上回り、約54%を占める状況となりました。海外売上高については、ほぼ前期並みに推移しました。

アミューズメント事業においては、当期中に5店舗を新規出店しましたが、既存店はクレーンゲーム機などの低迷により苦戦を強いられました。

以上の結果により当期の連結業績は、売上高155億9千2百万円(前年同期比3.5%減)、営業利益16億2百万円(前年同期比5.2%減)、経常利益16億1百万円(前年同期比8.0%減)、当期純利益13億8千6百万円(前年同期比8.9%増)となりました。

Q4 将来の成長に向けて、 どのような事業展開を 考えていますか？

アニメーション事業においては、今後、より商品化権事業への展開を意識した映像制作に注力することで、収益力を強化し、安定した成長力を確保していく考えです。また、高品質の作品を供給しつつ、モバイルやブロードバンドなどネットワーク配信における需要に対応していく体

トップメッセージ



制を確立し、これまでのコンテンツ資産を新しいプラットフォームに活かす方向を拡大していきます。

海外展開では、従来当社グループが力を発揮していたアジア・中東市場や欧州市場への配給に加え、今後は北米市場への攻略を積極化させていく計画です。海外においても、商品化権事業展開および配信需要の取り込みが成長力確保の鍵となっていくと思います。

アミューズメント事業においては、前述の通り、「複合型アミューズメント施設」の展開により、店舗あたりの集客力・収益力を高め、シェアを拡大させていきたいと考えています。さらに、アニメーション事業における商品化権事業展開などとのコラボレーションを意識した施設運営についても視野に入れています。

Q5 中期展望について どのようにお考えですか？

当社グループは、今後も持続的に成長することを目標としています。

そのためには、将来の成長に向けた前述の取り組みに

ついて、加速させる必要があります。とりわけ、商品化権事業と海外事業を拡大する映像制作の取り組みは急務であると認識しています。

また、成長速度を上げるためのM&Aも検討していきます。具体的には、アニメーション事業における周辺ビジネスを展開している企業に対して、積極的に働きかけていく考えです。

Q6 株主の皆様への メッセージをお願いします。

当社グループでは、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題と認識しており、安定的な配当の実施と株主優待によってこれを図っていく考えです。当期については、1株につき7円50銭の期末配当を実施させていただきました。

今後は、さらなる収益力の拡大を実現し、より多くの配当実施を目指していきます。また、企業価値の向上を通じて、皆様のご支援に報いるよう努力していく所存です。

将来の成長に向けて、全社一丸となって取り組み、より優れた人材が集まってくるような魅力のある会社にしていきたいと考えています。また、当社グループの成長を通じて、アニメーション業界、アミューズメント業界全体に貢献したいと思っています。今後、そのための企業体質の強化をアグレッシブに展開していきます。

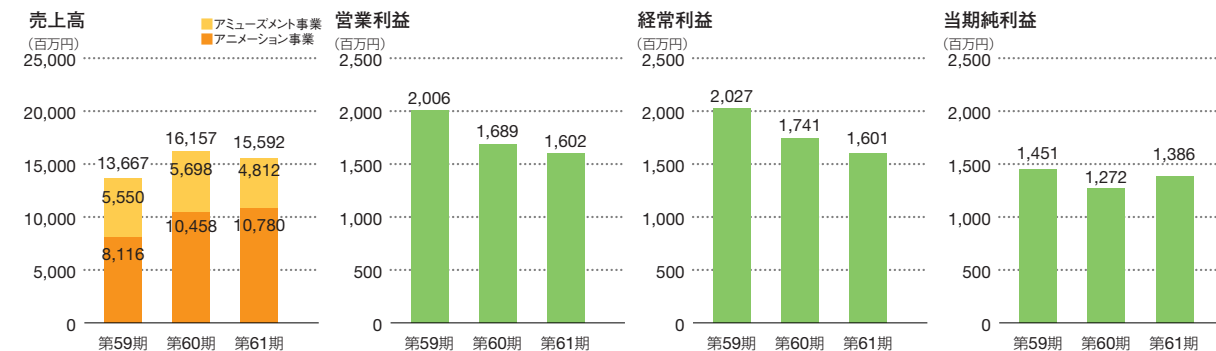
株主の皆様におかれましては、引き続き当社グループ事業へのご理解をいただくとともに、長期的なご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

連結財務ハイライト

世界中のあらゆる人々に
夢と感動あふれるエンタテインメントを提供し、
豊かな社会の実現と文化の創造に貢献することを
基本理念としております。

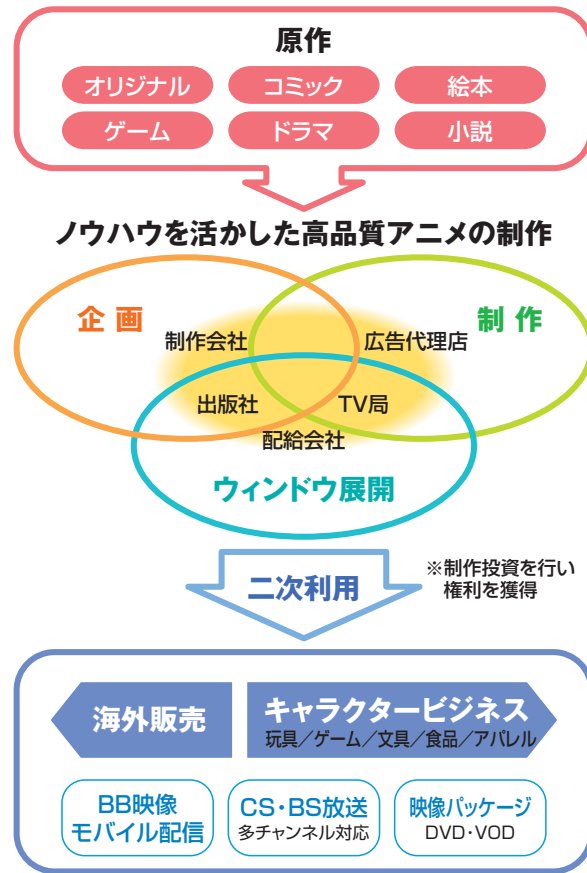
当社グループは、アニメーション映像の企画・制作・配給事業と、
アミューズメント施設の企画・開発・運営事業を通じ、
業界での地位確立に向けて積極的な営業展開を実施してまいります。

		(百万円)		
		第59期	第60期	第61期
売上高	アニメーション事業	8,116	10,458	10,780
	アミューズメント事業	5,550	5,698	4,812
	計	13,667	16,157	15,592
営業利益		2,006	1,689	1,602
経常利益		2,027	1,741	1,601
当期純利益		1,451	1,272	1,386



アニメーション事業

ビジネスモデル



スタッフの熱意とクリエイターの感性を最優先に作品の質向上に努めます。国内外でのライセンス許諾やネットワーク配信など、周辺ビジネスへの展開が収益基盤となります。

TOPICS

「名探偵コナン」優秀アニメーション作品賞を受賞

第30回日本アカデミー賞で、劇場版第10作『名探偵コナン 探偵たちの鎮魂歌(レクイエム)』(平成18年制作)が優秀アニメーション作品賞を受賞し、当社アニメーション作品のクオリティの高さが改めて証明されました。



写真提供:日本アカデミー賞協会

新スタジオ業務開始(東京都中野区)

既存スタジオ隣接地に、都内4箇所目となる自社スタジオが完成し、制作部門の整理・集約により、作品の質・生産性の更なる向上を図ります。



イギリスおよび香港法人設立

子会社であるトムス・ミュージックが、イギリスと香港に音楽事業会社を設立いたしました。今後は、欧州とアジアにおける、楽曲の著作権管理や開発業務に尽力していきます。

制作収入

総制作話数約7,700話の豊富なノウハウに加え、デジタル制作システム向上を図るなど、作品の質向上や競争力強化への取組みを続けています。

●映像制作

テレビシリーズは、レギュラー作品「それいけ!アンパンマン」「名探偵コナン」「とっとこハム太郎」に、「D.Gray-man」「史上最強の弟子ケンイチ」、セガサミーグループと連動の企画「ぶるるんっ!しずくちゃん」「爆丸 バトルブローラーズ」などを加えた計11作品を制作しました。また、恒例となりました「ルパン三世スペシャル」「名探偵コナンスペシャル」「それいけ!アンパンマンスペシャル」のテレビスペシャル番組3作品も制作しました。劇場アニメ映画は、前期同様「名探偵コナン」「それいけ! アンパンマン」を制作したほか、「甲虫王者ムシキング」「オシャレ魔女ラブandベリー」「北斗の拳」の合計5作品を制作しました。

オリジナルビデオ作品につきましては、「アンパンマンとはじめよう!」「ぶるるんっ!あいうえお」などキャラクターを活用した乳児向け知育ビデオを制作し、好評を博しています。

これらによる制作収入の全体の売上高は、50億1百万円(前年同期比12.3%の減)となりました。



ぶるるんっ!しずくちゃん
©クーリア/しずくちゃんプロジェクト・テレビ東京



D.Gray-man
ディ・グレイマン
©松江名俊・小学館/ケンイチ製作委員会・テレビ東京・電通・TMS



史上最強の弟子ケンイチ
©松江名俊・小学館/ケンイチ製作委員会・テレビ東京



それいけ!アンパンマン
いのちの星のドーリィ
©やなせたかし/フレール館・TMS・NTV
©やなせたかし/アンパンマン製作委員会2006

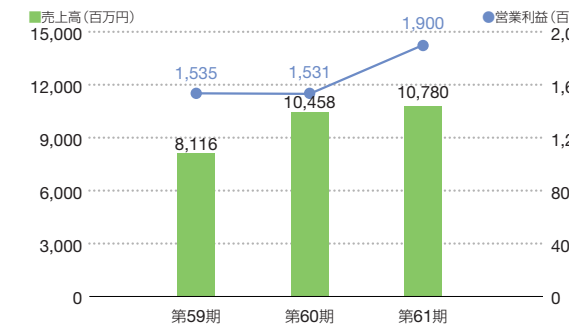


名探偵コナン 紺碧の棺
(ジョリー・ロジャー)
©2007 青山剛昌/小学館・読売テレビ・日本テレビ・小学館プロダクション・東宝・TMS



真救世主伝説 北斗の拳
ラオウ伝 激闘の章
©Burorson&Tetsuo Hara/NSP 1983
©NSP 2006, 2007

アニメーション事業売上高・営業利益※の推移



※本社費配賦前の営業利益

アニメーション事業

販売収入

新規タイトルの開発や、ブロードバンド市場でのブランドライセンス戦略にも力を注いでいます。

●放送・ビデオ事業

当連結会計年度も、「それいけ!アンパンマン」「名探偵コナン」「ルパン三世」などの主要タイトルが、放送権許諾収入や、ビデオ・DVD化権許諾収入において軒並み好調な業績をおさめました。嗜好の多様化・分散化に対応してCS・BS放送局など各メディアへの積極的なコンテンツ販売を継続したほか、DVDパッケージの販促プロモーション等を展開したことも、ライセンス許諾収入全体に大きく寄与しています。また、「名探偵コナン」の映画劇場シリーズ10作目が大ヒットし配給収入による配分収入に大きく寄与しました。

●商品化権事業

当社グループ保有の豊富なキャラクターを利用した商品化権収入は、当連結会計年度も主要タイトルを中心に好調に推移しました。現在は、玩具やゲームなど商品化を視野に入れた新たな作品開発に力を入れており、放映中のテレビシリーズ「ぷるるんっ!しずくちゃん」「爆丸 バトルブローラーズ」などセガサミーグループと連動した企画作品は、商品化権収入に寄与し始めています。

また当連結会計年度は、新規作品に加え、「アタックNo.1」をはじめ旧作品の商品開発にも力を入れました。今後もテレビシリーズの新規作品の制作に伴い、積極的に商品化権窓口を確保し、商品化権収入を拡大してまいります。

●海外事業

ワールドワイドな販売戦略を構築し、さらなる発展を目指します。

海外市場では、ケーブルテレビ・衛星放送をはじめとして多チャンネル放送化が進み、コンテンツとしてのアニメーション需要が高まっております。このような状況で、当社グループは保有する優良なアニメコンテンツを、欧州市場、アジア・中東市場および北米市場に提供しております。当連結会計年度においても、すでに評価の高いテレビシリーズ「名探偵コナン」「ルパン三世」などを中心にコンテンツ販売が順調に進みました。また、放送中のテレビシリーズ「爆丸 バトルブローラーズ」は、玩具・カードゲームへの商品化を伴う契約が国内に先駆けて韓国・台湾・香港にて締結されました。北米においても、今夏よりテレビ放送および玩具事業が開始される予定です。

少子化などにより国内のアニメーションコンテンツ市場の縮小が懸念される中、海外市場の開拓は当社グループ

海外放映のアニメ



Detective CONAN
©Gosho Aoyama / Shogakukan・YTV・TMS All Rights Reserved



HAMTARO
©R.KAWAI / Shogakukan, SMDE, TV TOKYO 2000

プの最優先課題と考えております。今後は引き続き欧州・アジア・中東市場を視野に入れると共に北米市場を重要な戦略拠点と位置づけ、市場ニーズに合ったオリジナル作品の企画・制作に取り組むなど海外での事業展開を進めてまいります。

●コンテンツ配信事業

自社配信事業として開始したブロードバンド動画配信サービス「東京ムービーONLINE」「ルパン三世 THEATER」において、現在では1,000を超える話数を配信しており、多彩なラインナップで多くの会員を獲得しています。また、昨年より国内大手の7つのポータルサイトで約3,000万人に向けて配信するなど、確実にそのブランドがユーザーに定着しつつあります。

モバイル配信事業においても、アニメコミックサイト「アニ読メ」では、既存タイトルを主として順調に作品が加わっており、現在では他社有名アニメを含め22作品、約800話を公開しています。またそのノウハウを活用し、昨年開始した電子書籍サイト「ルパン THE COMIC」で



©池田理代子・TMS



原作：モンキー・パンチ©TMS



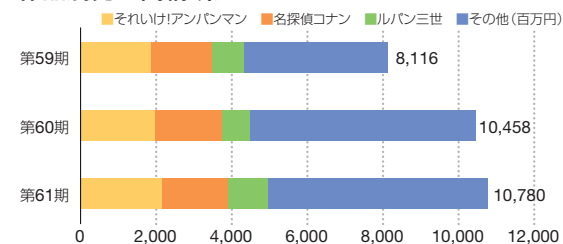
©モンキー・パンチ/TMS・NTV

はアニメ作品だけでなく、原作コミックも含め167話を配信しています。「ルパン三世」公式携帯サイトでは、昨年8月に動画配信サービス「ルパン THE MOVIE」を開始、さらにテレビスペシャル放送に合わせた大規模リニューアルを予定しており、さらなるユーザー獲得が予想されます。

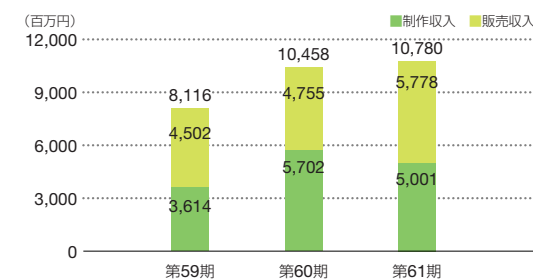
これらによる販売収入全体の売上高は57億7千8百万円(前年同期比21.5%の増)となりました。

アニメーション事業全体の売上高は107億8千万円(前年同期比3.1%の増)となり、当社アニメーション事業の売上高として前期実績を更新し、過去最高額を果たすことができました。

作品別売上高構成比



項目別売上高構成比



アミューズメント事業

ビジネスモデル

立地環境に適応した地域密着型の店舗開発。積極的な出店と事業効率の最適化を目指します。

事業概況

当社グループの運営するアミューズメント施設は、地域密着型を基本コンセプトとする店舗運営を行っています。各店舗では「楽しく安心して遊べる場所」の提供を第一として、マイクパフォーマンスや、ディスプレイの演出、その他様々なイベントを取り入れるなど、他社店舗との差別化を目指した付加価値の高いサービスを実施しています。

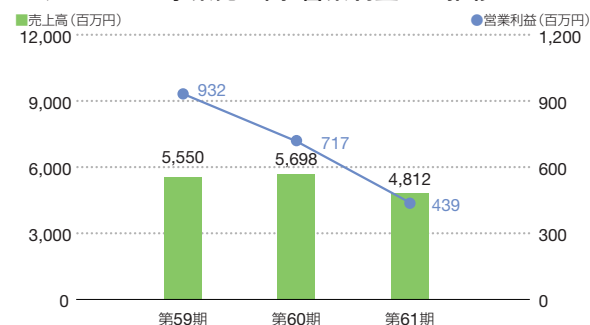
新規施設開発につきましては、当連結会計年度は5店舗の新規出店を実施したほか、不採算店3店舗の閉鎖を行いました。旧連結子会社から譲渡を受けた1店舗を加えると、平成19年3月末現在の施設店舗数は26店舗となっています。

施設運営収入につきましては、新規出店効果はあったものの、前期末に実施しました連結子会社売却による影響等により、アミューズメント事業全体の売上高は48億1千2百万円となり、前年同期比15.6%の減収となりました。

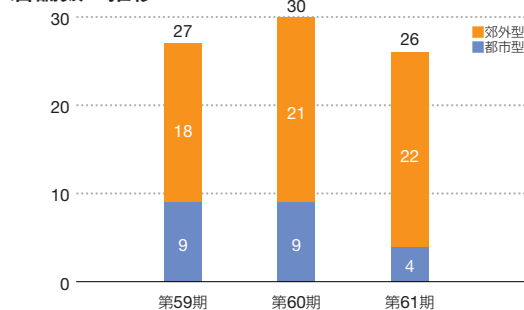


強み: 出店にあたっての信用力・財務力
グループシナジーを活かせる環境
LOW COST OPERATION

アミューズメント事業売上高・営業利益※1の推移※2



店舗数の推移※2



※1 本社費配賦前の営業利益

※2 第59期・第60期の業績及び店舗数には、旧連結子会社が含まれております。

今後の取り組み

アミューズメント施設の市場規模は拡大傾向にありますが、その背景には、大規模商業施設へのテナント出店など店舗の複合化・大型化や、それに伴う中小規模店舗の淘汰があります。大手各社は「出店数拡大」から「収益力強化」へと成長モデルを変更しており、様々な周辺業態を取り込むなど、幅広い年代層を視野に入れた顧客満足度の高い施設運営に力を入れています。

このような中、当社グループの新規出店につきましては投資効率を第一に考え、ボウリングやバッティングなどといった営業時間に制約のない新たな業態を取り入れるなど、時流に合った集客力の高い施設の開発に取り組んでいきます。また、既存店につきましても不採算店舗

からの撤退や、施設リニューアルを順次実施するなど、アミューズメント事業全体としての収益力回復を目指していきます。



都市型店舗

AGスクエア都市型店

水戸店 松戸店
赤羽店 栄店



郊外型店舗

AGスクエア郊外型店

一関店	袋井店
庄内店	磐田店
つくば店	豊川店
石岡店	刈谷店
埼玉花園店	大垣店
習志野店	四日市店
千葉鎌取店	松阪店
多摩境店	大津店
松本店	岸和田店
岡谷店	小郡店
掛川店	佐賀武雄店

財務諸表

連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨) (単位:百万円)

科目	当連結会計年度 平成19年3月31日現在	前連結会計年度 平成18年3月31日現在
資産の部		
流動資産	13,048	11,809
固定資産	5,617	5,063
有形固定資産	3,003	2,823
建物及び構築物	1,747	1,356
土地	797	1,028
その他	458	437
無形固定資産	168	172
投資その他の資産	2,445	2,067
資産合計	18,666	16,872
負債の部		
流動負債	3,401	2,586
固定負債	477	519
負債合計	3,879	3,106
少数株主持分		
少数株主持分	—	—
資本の部		
資本金	—	8,816
資本剰余金	—	1,806
利益剰余金	—	4,115
その他有価証券評価差額金	—	35
為替換算調整勘定	—	△121
自己株式	—	△887
資本合計	—	13,765
負債、少数株主持分及び資本合計	—	16,872
純資産の部		
株主資本	14,886	—
資本金	8,816	—
資本剰余金	1,806	—
利益剰余金	5,152	—
自己株式	△889	—
評価・換算差額等	△125	—
新株予約権	25	—
純資産合計	14,786	—
負債純資産合計	18,666	—

注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結損益計算書(要旨) (単位:百万円)

科目	当連結会計年度 平成18年4月 1日から 平成19年3月31日まで	前連結会計年度 平成17年4月 1日から 平成18年3月31日まで
売上高	15,592	16,157
売上原価	11,856	12,666
売上総利益	3,735	3,491
販売費及び一般管理費	2,133	1,801
営業利益	1,602	1,689
営業外収益	91	80
営業外費用	91	29
経常利益	1,601	1,741
特別利益	75	417
特別損失	337	489
税金等調整前当期純利益	1,339	1,669
法人税、住民税及び事業税	69	235
法人税等調整額	△116	161
当期純利益	1,386	1,272

注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結キャッシュ・フロー計算書(要約) (単位:百万円)

科目	当連結会計年度 平成18年4月 1日から 平成19年3月31日まで	前連結会計年度 平成17年4月 1日から 平成18年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	385	2,466
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,175	△1,577
財務活動によるキャッシュ・フロー	△404	△679
現金及び現金同等物に係る換算差額	△19	△11
現金及び現金同等物の増加(△減少)額	△2,215	197
現金及び現金同等物の期首残高	7,250	7,052
現金及び現金同等物の期末残高	5,035	7,250

注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結株主資本等変動計算書(要旨) 当連結会計年度(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで) (単位:百万円)

	株主資本					評価・換算 差額等	新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
平成18年3月31日残高	8,816	1,806	4,115	△887	13,851	△85	—	13,765
当連結会計年度中の変動額								
剰余金の配当			△319		△319			△319
利益処分による役員賞与			△30		△30			△30
当期純利益			1,386		1,386			1,386
自己株式の取得				△1	△1			△1
株主資本以外の項目の当連結会計年度中の変動額(純額)						△39	25	△14
当連結会計年度中の変動額合計	—	—	1,036	△1	1,035	△39	25	1,020
平成19年3月31日残高	8,816	1,806	5,152	△889	14,886	△125	25	14,786

注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

個別財務諸表

個別貸借対照表(要旨) (単位:百万円)

科目	当事業年度 平成19年3月31日現在	前事業年度 平成18年3月31日現在
資産の部		
流動資産	12,660	11,539
固定資産	5,816	5,521
資産合計	18,476	17,060
負債の部		
流動負債	3,409	2,652
固定負債	366	413
負債合計	3,775	3,066
資本の部		
資本金	—	8,816
資本剰余金	—	1,806
利益剰余金	—	4,223
その他有価証券評価差額金	—	35
自己株式	—	△887
資本合計	—	13,994
負債資本合計	—	17,060
純資産の部		
株主資本	14,660	—
資本金	8,816	—
資本剰余金	1,806	—
利益剰余金	4,926	—
自己株式	△ 889	—
評価・換算差額等	14	—
新株予約権	25	—
純資産合計	14,700	—
負債純資産合計	18,476	—

注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

個別損益計算書(要旨) (単位:百万円)

科目	当事業年度 平成18年4月 1日から 平成19年3月31日まで	前事業年度 平成17年4月 1日から 平成18年3月31日まで
売上高	15,192	14,471
売上原価	11,590	11,288
売上総利益	3,601	3,182
販売費及び一般管理費	2,093	1,669
営業利益	1,508	1,512
営業外収益	103	104
営業外費用	70	24
経常利益	1,541	1,592
特別利益	62	120
特別損失	337	1,055
税引前当期純利益	1,266	658
法人税、住民税及び事業税	47	191
法人税等調整額	166	151
当期純利益	1,052	315
前期繰越利益	—	435
自己株式処分差損	—	24
当期末処分利益	—	725

注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

会社概要

(平成19年3月31日現在)

会社概要

商 号	株式会社 トムス・エンタテインメント
設 立	昭和21年10月
資 本 金	88億1,686万円 (名古屋証券取引所市場第二部上場)
従 業 員 数	298名
事 業 内 容	アニメーション事業 アニメーション作品の企画・制作・販売・ 配給および輸出 アミューズメント事業 アミューズメント施設の企画・開発・運営
事 業 所	本社 (管理本部、東京ムービー事業本部、 アミューズメント施設事業本部) 〒160-0023 東京都新宿区西新宿三丁目2番4号 TEL :03-5325-9111 FAX:03-5325-1511 東京ムービー事業本部制作スタジオ 〒164-0002 東京都中野区上高田五丁目39番1号 TEL :03-3319-1131 FAX:03-3319-1140
主な子会社	株式会社 テレコム・アニメーションフィルム 株式会社 トムス・フォト 株式会社 トムス・ミュージック TMS ENTERTAINMENT USA, INC. TMS MUSIC (UK) LTD. TMS MUSIC (HK) LTD.

取締役および監査役

取締役会長	里見 治
取締役社長(代表取締役)	古賀 督徳
常務取締役(代表取締役)	松元 理人
常務取締役	吉田 諭司
取 締 役	山田 克博
取 締 役	吉田 力雄
取 締 役	鶴谷 誠
取 締 役	岡村 秀樹
取 締 役	田畑 俊哉
取 締 役	西田 浩
常勤監査役	升森 長
監 査 役	宇佐美基彦
監 査 役	平川 壽男
監 査 役	田中 克郎

株式状況

株式の状況 (平成19年3月31日現在)

発行可能株式総数	121,000,000株
発行済株式の総数	44,153,101株
株主数	4,198名(前期比485名増)

大株主の状況 (平成19年3月31日現在)

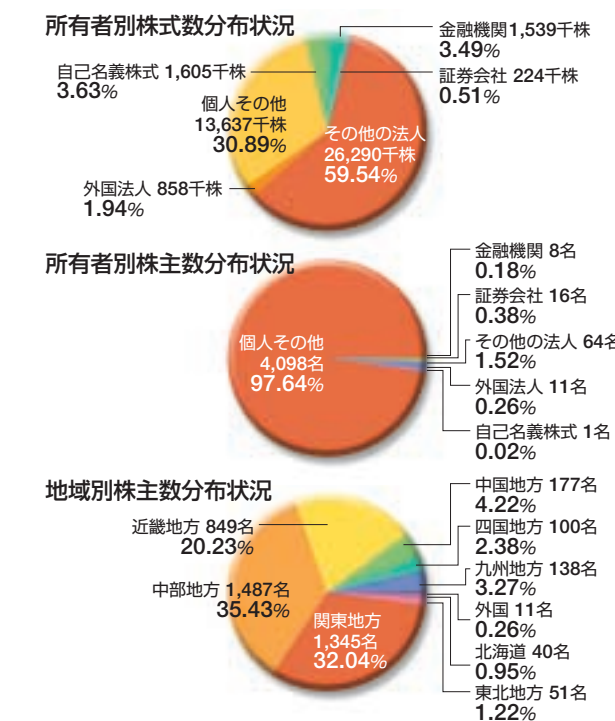
株 主 名	持株数(千株)	出資比率(%)
セガサミーホールディングス(株)	17,440	40.99
セガサミーインベストメント(株)	6,109	14.36
日本テレビ放送網(株)	2,000	4.70
中部証券金融(株)	640	1.50
ノーザントラスト カンパニー(エイブイエフ シー)サブ アカウント アメリカン クライアント	358	0.84
資産管理サービス信託銀行(株)(年金特金口)	330	0.78
ミツクス	317	0.75
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	222	0.52
代永 衛	203	0.48
柴田 渉	200	0.47

※当社は、自己株式1,604,821株を保有しておりますが、上記の大株主からは除
いております。また出資比率は、自己株式を控除して計算しております。

株主メモ

上場証券取引所	名古屋証券取引所市場第二部
事 業 年 度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基 準 日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当金 3月31日
公 告 方 法	電子公告にて当社のホームページ (http://www.tms-e.co.jp/)に掲載いたしま す。ただし、やむを得ない事由によって電 子公告による公告をすることができない場 合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株式分布状況 (平成19年3月31日現在)



株主名簿管理人	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同 連 絡 先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話：0120-232-711 (通話料無料) URL http://www.tr.mufg.jp/daikou/
同 取 次 所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店